

## 日本銀行券の改刷および五百円貨の改鑄について

▼財務省では、四月九日、偽造抵抗力強化等の観点から、日本銀行券の改刷および五百円貨の改鑄を行うことを決定し、公表しました。

▼日本銀行としては、今後、財務省等と連携しながら所要の準備を進めていく方針です。

### 1. 日本銀行券の改刷

#### (1) 主な様式

- ① 新たな偽造防止対策等
- ・ 高精度すき入れ（すかし）
- ・ 現行の「すき入れ」に加えて、新たに高精度なすき入れ模様を導入

・ 最先端技術を用いたホログラム（注）

一万円券および五千円券にはストライプタイプのホログラムを新たに導入。千円券にはパッチタイプのホログラムを新たに導入

（注）肖像の3D画像が回転する最先端のホログラム。銀行券への採用は世界初。

・ また、記番号について、現行の最大九桁から一〇桁への変更を予定

新一万円券 表



裏



新五千円券 表



裏



新千円券 表



裏



・ ホログラムをはじめ図柄等の細部については、今後、検討の上、決定予定。また、様式は所要の手続き等を経て、今後、告示で定めることとなる。

更を予定

- ② ユニバーサルデザイン（券種間の識別性向上等）
- ・ 指の感触により識別できる
- ・ マークの形状変更および券種毎の配置変更
- ・ 額面数字の大型化（表・裏）
- ・ 「ホログラム」および「すき入れ」位置を券種毎に変更
- などを予定

- ③ 図柄（図表1参照）
- ④ 寸法（図表2参照）
- (2) 発行時期
- ・ 二〇二四年度上期を目途

### 2. 五百円貨の改鑄

#### (1) 主な形式等

#### ① 新たな偽造防止技術

・ 形式等の細部については、今後、検討の上、決定予定。また、形式等は所要の手続き等を経て、今後、政令で定めることとなる。

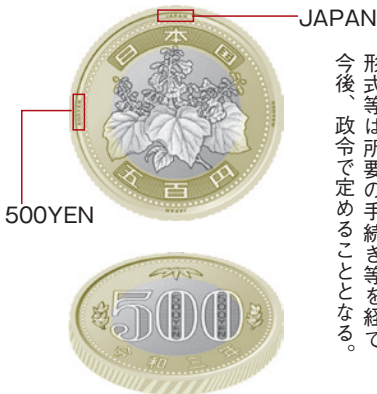
- ・ 素材に新規技術であるバイカラー・クラッド（二色三層構造）（注1）を導入
- ・ 貨幣の縁に、新たに「異形斜めギザ」（注2）を導入
- ・ 貨幣の縁の内側に、新たに微細文字を加工
- ② 素材等（図表3参照）
- (2) 発行時期
- ・ 二〇二二年度上期を目途

- (注1) 異なる種類の金属板をサンドイッチ状に挟み込む「クラッド」技術でできた円板を、それとは異なる金属でできたリングの中にはめ合わせる「バイカラー」技術の組み合わせ。
- (注2) 斜めギザの一部を他のギザとは異なる形状にしたもので、通常貨幣（大量生産型貨幣）への採用は世界初。

#### ※ 注意事項

・ 現行の日本銀行券および五百円貨は、新しい日本銀行券および五百円貨が発行されたあとも、引き続き通用します。・ 「現行の日本銀行券が使えなくなる」などを騙った詐欺行為（振り込め詐欺など）にご注意ください。

### 新しい500円貨



（画像提供：財務省）

▼一九八三年以来、日本銀行は、金融研究所において国内外の著名な経済学者や中央銀行関係者を招いた国際コンファランスを開催しています。今年度は「Central Bank Design

**国際コンファランスを開催**

図表1 図柄

券種	表 (肖像)	裏
新一万円券	渋沢栄一	東京駅(丸の内駅舎)
新五千円券	津田梅子	フジ(藤)
新千円券	北里柴三郎	富嶽三十六景※

(参考) 現行券

表 (肖像)	裏
福沢諭吉	鳳凰像
樋口一葉	燕子花図
野口英世	富士山と桜

図表2 寸法

券種	寸法	
新一万円券	縦：76 ミリメートル	横：160 ミリメートル
新五千円券	縦：76 ミリメートル	横：156 ミリメートル
新千円券	縦：76 ミリメートル	横：150 ミリメートル

※富嶽三十六景「神奈川沖浪裏」(葛飾北斎)

現行券と同一



国際コンファランスの様相(撮影:野瀬勝一)

Under a Continued Low Inflation and Interest Rate Environment」(低インフレーション・低金利環境のもとでの中央銀行デザイン)をテーマとして、五月二十九日、三十日に開催しま

図表3 素材等

	新しい500円貨	(参考) 現行500円貨
素材	ニッケル黄銅、白銅および銅(バイカラー・クラッド)	ニッケル黄銅
品位	千分中銅750、亜鉛125、ニッケル125	千分中銅720、亜鉛200、ニッケル80
量目	7.1グラム	7.0グラム
縁	異形斜めギザ	斜めギザ
直径	同右	26.5ミリメートル

した。

▼当日の様相およびコンファランスの運営を担う金融研究所経済ファイナンス研究課の業務内容については、本誌二二ページ「FOCUS→BOJ」記事にて詳しく紹介しています。ぜひご覧ください。

**第二十回情報セキュリティ・シンポジウムを開催**

▼金融研究所情報技術研究センター(CITECS)では、三月二十七日に、「金融分野における機械学習システムの適切な活用に向けて」と題して第二十回情報セキュリティ・シンポジウムを開催しました。参加者は、情報セキュリティ技術に関わる金融機関関係者や研究者、システム開発・運用に携わる技術者など、約一〇〇名に上りました。講演では、機械学習システム(注1)を利用するうえで、セキュリティ上のリスクと対策のほか、その品質評価に関する研究やガイドラインの策定に向けた

最新の動向等

が紹介されました。その後のパネルディスカッションにおいては、四名の外部の有識者が、金融機関が機械学習システムを金融サービスの提供に効果的に活用していくための留意点や課題等について活発な議論を交わしました。

▼近年、フィンテック(注2)が注目を集めるなど、金融サービスにおいて情報技術が果たす役割はますます大きくなっています。情報技術研究センターでは、

(注1) 機械学習システムとは人工知能(AI)の要素技術である機械学習を実装したシステム。  
(注2) フィンテック(Fintech)とは金融(Finance)と技術(Technology)を組み合わせた言葉。金融サービスと情報技術とを結び付けたさまざまな革新的な動きを指す造語。



会場の様子(撮影:中山利尚)

## 編集後記

■「好きこそ物の上手なれ」ということわざがありますが、今回の編集作業を通じて、物事を楽しむことの大切さを再認識しました。インタビューにご登場いただいた増田明美さんは、好きな言葉として「知・好・楽」をあげられ、ロサンゼルス五輪での途中棄権は、楽しめなかったことが原因とお話されていました。対談にご登場いただいた斉藤淳さんも、教養の土台としての英語を楽しく習得する方法を追求されています。自分自身の学生時代を振り返っても、勉強やスポーツを楽しむと思ったときは、必ずと言って良いほど成績も伴い、そしてそれがまた楽しさを増す好循環でした。逆に、何としてもここまで問題集を終えなければとか、野球部で打率や防御率を何とか維持しなくてはといった責任感や義務感が強くなりすぎたときは、当然楽しいはずもなく、結果もついてこなかったように思います。現実的には、楽しくないこともやらなければならないときもありますが、たとえばその後の趣味の時間やご褒美とセットにするなど、楽しくないことを楽しむ工夫も大切ですね。(中川)

※本誌は、全国の日本銀行本支店および貨幣博物館、旧小樽支店金融資料館等でお配りしています。個人の方の定期購読、郵送はお取り扱いしておりませんのでご了承ください。なお、既刊号全文をPDFファイル形式で日本銀行ホームページ上に掲載していますのでご利用ください。  
([http://www.boj.or.jp/announcements/koho\\_nichigin/index.htm/](http://www.boj.or.jp/announcements/koho_nichigin/index.htm/))

※本誌に掲載している内容は、必ずしも日本銀行の見解を反映しているものではありません。日本銀行の政策・業務運営に関する公式見解等については、日本銀行ホームページ(<http://www.boj.or.jp/>)をご覧ください。

にちぎん 2019年夏号  
編集・発行人 中川 忍  
発行 日本銀行情報サービス局  
〒103-8660  
東京都中央区日本橋本石町2-1-1  
☎03-3277-2405



デザイン 株式会社市川事務所  
印刷 株式会社アイネット  
©日本銀行情報サービス局 禁無断転載

金融機関が情報

化社会において

直面する新たな

課題に適切に対

処していけるように、今後まさ

まざまな取り組みを行っていき

ます。



### 「日銀春休み親子見学会」を 開催（「日銀夏休み子ども特 別見学会」のご案内）

▼日本銀行本店では、三月二十六日～二十八日の三日間に

わたり、小学校四～六年生およ

び中学生のお子さまとその保護

者の方を対象に、「日銀春休み

親子見学会二〇一九」を開催し

ました。

▼見学会では、本店見学やお札

に関する体験学習などのプログ

ラムにご参加いただき、「一億

円の重さ体験やお金に隠された

ヒミツを知るこ

とができて楽し

かった」などの

感想が寄せられ



ました。

▼今回は、夏休み期間中の七月

二十九日～八月二日の開催を予

定しています。お申し込み方法

などの詳細は日銀ホームページ

をご覧ください。

### 「第一五回日銀グランプリ」 キャンペーンからの提言」 論文募集

応募締切：九月三十日（月）

▼「日銀グランプリ」は、学生  
の皆さんを対象に開催する、金

融・経済分野の

論文・プレゼン

テーションコ

ンテストです。

二〇〇五年度から毎年開催して

おり、今年度も応募論文を募集

中です。

▼テーマは「わが国の金融・経

済への提言」です。応募に当たっ

ては、日銀ホームページ上の募

集要項をお読みください。多く

の学生の皆さんからの斬新な提

言をお待ちしております。

